

ニホンイヌワシ 有精卵の 移動について



飼育展示担当 主査 三浦 匡哉

ニホンイヌワシは北海道から九州にかけての全国に生息分布が確認されている大型の猛禽類です。野生下の推定個体数はおよそ650羽で、うち約200のペア形成が確認されています。繁殖期は1月下旬～2月で、通常2個産卵し、42～45日後に孵化します。最近の繁殖成功率は非常に低く、また、仮に2つ孵化しても、兄弟間競争により、2羽とも無事に巣立つことはほとんどないため、将来における個体数の急速な減少が危惧されています。



大森山動物園では、ニホンイヌワシを飼育して40年という経験があり、これまでも、国内で初めて人工授精による胚発生の確認や国内初のローテーション育雛法で3羽を巣立たせる等、様々なことに取り組んできました。

イヌワシの生息域外保全の役割を見据えた動物園の現在の取り組みについて紹介します。

それまで当園では人工育雛について経験がありましたが、2010年に孵卵器による人工孵化と、異なるペアの間で卵やヒナの移動を行いました。これは、野生下の巣から動物園に卵を移動すること、またはその逆を想定して、園内の2ペア間で行ったものです。1つのペアはこれまでにたくさんの子孫を残し、繁殖に貢献してきたベテランペア(信濃・たつこ)ですが、孵化・育雛の経験がない新婚ペア(鳥海・西目)です。2ペアの物理的な距離はせいぜい300mほどです。

結果は、孵卵器による人工孵化に成功し、また、孵化や育雛の経験がない飼育下

のイヌワシでも、ちゃんとヒナをかえし、育て上げることが確認されました。

次に考えたのは、300mの距離をさらに伸ばすことです。2011年2月下旬に、信濃・たつこペアが産んだ卵3個を東京都多摩動物公園に移動し、多摩で孵化させる計画を立てました。稀少鳥類であるため、生きた鳥だけではなく、卵の移動も国の許可が必要となり、移動手続きに少し時間がかかりました。いよいよ大卵の移動と思ったところで、先の東日本大震災により、計画が中止となってしまいました。

今年は、隣の岩手県の盛岡市動物公園と協力し、同じ計画を進めようとしています。盛岡では産卵・抱卵するものの、孵化には至っていないペアです。余談ですが、盛岡のイヌワシの雌は、当園で初めて繁殖した「空(そら)」です。繁殖経験のないペアでの孵化・育雛、それも距離が300mから100kmと、一気に300倍以上も長くなるわけです。

しかし、今回はいくつか不安要素があります。猛禽舎改修工事のため、信濃・たつこペアは住み慣れた環境から、初めて入る場

所に移り、しかもそこは今までいた所よりもかなり狭くなっています。そのため、いつもどおり卵を産んでくれるかどうか心配です。ただ、2月になり交尾行動が確認されているので、少し期待が持てます。

このコミュニケーションが皆さんのお手元に届く頃は、有精卵を盛岡に移動する直前ぐらいでしょうか？今回、この試みがうまくいけば、次はさらに距離を伸ばし、石川県や大阪の動物園のイヌワシペアでもできるように検討したいと考えています。日本動物園水族館協会やイヌワシ飼育園館と共に野生下のイヌワシをバックアップする体制を築き上げ、動物園として生息域外保全に寄与できるようにしたいと考えています。



イベントレポート

秋の動物ふれあいフェスティバル 10/9・10開催



毎年たくさんの市民で賑わう大森山動物園の恒例行事です。今年のテーマは「絆」、サブタイトルに「食と遊びと動物たち」を掲げ、動物たちと職員の力を結集してお客さまをお迎えしました。

味覚の秋ということもあり、本園のゾウの糞でつくった堆肥を主な肥料として育ったお米「ゾウさん米」や山内いもの子汁の直販が行われ思わぬご馳走に皆さま大喜びでした。園内の各獣舎に設置された問題に挑む「ウォーククイズ」には「アニマル戦隊ミルヴェンジャー7」(写真左)が登場して子どもたちは大喜び。また、キリン展示場を大開放して体育の秋を楽しむ「親子の大運動会」では、親御さんと子どもたちの歓声が澄み渡った青空に心地よく響いておりました。

大好評の「どうぶつパレード」を2日間とも実施しました。出発地点のゲート下の広場から詰めかけた人々で大賑わい。ペンギンや仔ヤギたちが目の前を歩きはじめると、どの親子やカップルも目をキラキラ輝かせて満面の笑みで見つめ合ったり、体を寄せ合って喜んだり、しっかりと「絆」を深めていただけたのではないのでしょうか。

いい夫婦の日 11/23開催



～新しい視線で楽しむ大人の動物園～というサブタイトルを掲げ、今年で3回目になるご夫婦限定の特別企画です。子どものための施設という印象が強い動物園ですが、あらためてご夫婦だけで散策すると新たな発見がいっぱいようです。メインとなるスペシャルガイドツアーでは、間近に見るキリンの迫力と可愛らしさに、どのご夫婦も満面の笑顔。イベント終了後のアンケートには、「楽しかった」「満足」「また企画してほしい」などなど、お褒めの言葉をたくさんいただきました。

さよなら感謝祭 11/27開催



平成23年中に亡くなった動物の霊を慰めるとともに、お客さまに感謝の意を込めて毎年開催する「さよなら感謝祭」。地元、浜田小学校の児童や各ボランティア団体の他、当日ご来園いただいたお客さまなど約200名の方に出席していただきました。亡くなった動物たちの祭壇を前に、小松園長が「今年は「キリン」や「アムールトラ」など人気動物が相次いで亡くなったが、新たな命も誕生している。命のはかなさ、尊さを学んで欲しい」などとあいさつ。出席した浜田小学校の児童たちが目を輝かせて聞き入っていたのが印象的でした。その他、餅つき体験が行われるなど、賑やかなうちに通常開園が終了しました。

ときめきナイト in 大森山



7月16日(土)と12月11日(日)の夏と冬の2回にわたり大森山動物園を主会場に若者男女交流イベント「ときめきナイト in 大森山」を行いました。民間事業者に運営を委託する新しい試みで、夏冬共に募集定員100%の参加率でした。「どうぶつ」という共通したキーワードを軸に、動物園探検、軽音楽、夜の観覧車など、楽しみながら交流を深めていただきました。この企画でカップルとなった方々が、お子さまを連れて動物園に遊びにくる。そんな日が来ることを心からお待ちしております。

雪の動物園

1/7～2/26の土日祝 計18日間開催



冬の開園は平成2年からスタートし今回で23回目となりますが、「雪の動物園」としての開園は今年で7回目となります。雪と戯れ、走り回る姿など、普段は見ることができない冬の動物たちの様子をじっくりと観察、体験していただき、雪で真っ白になった幻想的な雰囲気の中で動物園を楽しんでいただくために実施しております。

とにかく今年は連日の大雪で園内の除雪作業が大変でしたが、たくさんのお客さまに喜んでいただけたのではないのでしょうか。特に1月7日の初日は猛吹雪にもかかわらず開園時間前からゲート前にたくさんの方が並び、市民の「雪の動物園」に対する期待度が伺えました。「トナカイのお散歩タイム」という新たな試みが大好評。間近に迫るトナカイに恐る恐る近づく子どもたち。その夜の食卓は、子どもたちの武勇伝で盛り上がったのではないのでしょうか。